

# 模擬授業における学習規律とマネジメント時間の関係

角野 誠也 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 大西 祐司

キーワード：学習の勢い，学習規律，マネジメント時間

## 1. 緒言

教員に求められている資質能力を確実に身につけることが重要である(文部科学省, 2009)。そのため、教員養成課程では、実践力の育成を目的とした模擬授業が行われている。模擬授業の実施方法は多様であることから、成果の上がる模擬授業の展開に向けてはさらなる研究が求められる。木原(2003)は、模擬授業の実践により授業の基礎的条件に関わる教授技術の習得ができると指摘している。その基礎的条件には学習の勢いが挙げられ、マネジメント時間を最小限にすることや運動学習場面を多く確保する必要がある。模擬授業を対象に相互作用についての研究は進められているものの(松本ら, 2007)、マネジメント時間や学習規律についての研究はほとんどなされていない。

そこで本研究は、学習の勢いを生み出すための基礎的条件である授業マネジメントと学習規律に焦点をあて、模擬授業での学習規律とマネジメント時間の関係性を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

びわこ成蹊スポーツ大学で行われている模擬授業(専門実習 全9回)を対象とした。学習規律の頻度と質及びマネジメントの頻度と時間を記録するため、ビデオカメラを用いて授業全体が収まるよう収録した。撮影の際には教師役にワイヤレスマイクを付け音声も収録した。マネジメント時間を記録する際、体育授業場面の期間記録法を適用した(高橋, 2003)。

## 3. 結果及び考察

マネジメント時間の増減にばらつきがあり、授業の進行によるマネジメント時間の減少傾

向は見られなかった。その要因として、本学の専門実習では、模擬授業を2回行う学生はいなかったことから、1回目で学んだであろうインストラクションやマネジメントの基礎的な教授技術を発揮する機会が得られなかったことが考えられる。マネジメント頻度と学習規律の頻度との相関関係がみられたものの相関係数0.36であり、マネジメント頻度と学習規律の頻度の関係は弱い相関関係であった。教員養成課程の学生は授業計画を十分に練れておらず、マネジメント方略をもたずに授業を行っているためスムーズな授業展開が困難であったと考えられる。学習規律の頻度とマネジメント時間の相関係数0.33と関係はあるものの弱い相関関係であった。相関関係が顕著として表れない要因として、流動的なマネジメントの利用が考えられる。

## 3. 結論

本研究は、学習規律とマネジメント時間の関係性を明らかにすることを目的としたが、流動的なマネジメントに陥っている模擬授業が多くみられ、生徒役は教師役の流動的な声かけに振り回されている傾向が明らかとなった。

一方で、模擬授業レベルでも構造化されたマネジメントに関する特徴が一部確認できた。具体的には笛をうまく使用し、生徒役を動かすことができていた。

## 引用参考文献

木原成一郎(2010)教師として育つ 体育授業の実践的指導力を育むには。明和出版：東京。40 - 43。